

組織活性化部門賞

熊本県 水土里ネットおがわ

平成29年度
21世紀土地改良区創造運動

遊休農地を活用したもち米作りと餅配りが 高齢者から子どもまで地域の結びつきを強化

位置図



子どもたちがもち米作りに参加
ついた餅は高齢者に配布

熊本県のほぼ中央に位置する宇城市は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた農業の盛んな地域です。そのうち水土里ネットおがわが管理する地域では、米や野菜の栽培および花卉などの施設園芸が行われ、県内でも高い農業生産額を誇っています。



もち米の田植え

しかし宇城市は高齢者の割合が全国平均よりも高く、とくに一人暮らしの高齢者を地域がどう支えるかが課題となっていました。また、用水施設の老朽化が進んだり、土地を持つ組合員にも非農家が増え、また、水土里ネットの役割や活動が地域住

民の間で十分に理解されていないという問題もありました。

そこで、地域の結びつきや活力を取り戻すとともに、次世代を担う子どもたちを含む地域の人たちに水土里ネットを広く知ってもらうため、21創造運動に取り組むことになりました。

活動のひとつが、遊休農地を活用したもち米作りと福祉餅つきです。水土里ネットおがわが地元のボランティア団体と共催し、平成20年から続けています。

もち米作りは地元の子どもたちに参加を呼びかけ、田植えや稲刈り、案山子づくりなどを一緒に行います。収穫したもち米は、年末に地域の高齢者と子どもたちを招いて開催される「サロン（お楽しみ会）」で行う福祉餅つきの原料となります。ついた餅はその場で配布する他、参加できなかった高齢者世帯にはボランティア団体のメンバーが各戸を訪問して配っています。この餅配り活動が市の広報誌や口コミによって地域住民の間に浸透し、田植えや稲刈りに参加する子どもたちは年々増えています。また、配布する餅の需要が高まったため、平成29年度からはもち米の耕作地を従来の7aから13aへ拡大。遊休農地のさらなる活用につながっています。

中学校への出前授業や
フェイスブックによる広報も



水土里ネット理事長の講話(小川ふれあい塾)

農村が育む環境の大切さなどを伝えていきます。

水土里ネットの活動をより多くの人に知ってもらうため、現在はフェイスブックでの広報活動も展開。子どもたちの田植えや施設の点検・維持活動の様子などを、写真つきでこまめに発信しています。

最近では一人暮らしの高齢者から餅配りを楽しみにする声が聞かれたり、出前授業をした生徒たちからお礼の年賀状が届くなど、活動の成果に手応えを感じています。今後「地域とともに歩む水土里ネット」をスローガンに、活動を継続していきます。

水土里ネット概要

水土里ネット名	水土里ネットおがわ
役員数	20名
職員数	常勤2名
組合員数	1,074名
受益面積	757ha

*平成29年4月現在

平成28年から、地元の中学校で「水土里ネットの出前授業（小川ふれあい塾）」も実施しています。水土里ネットおがわの理事長が講師として出向き、生徒たちの前で農業用水施設の維持管理や